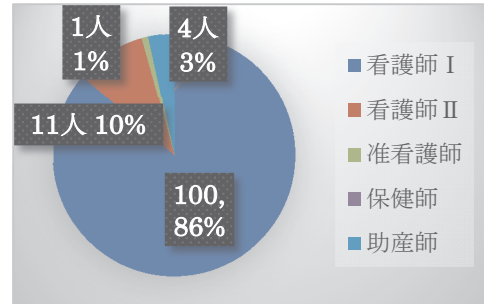


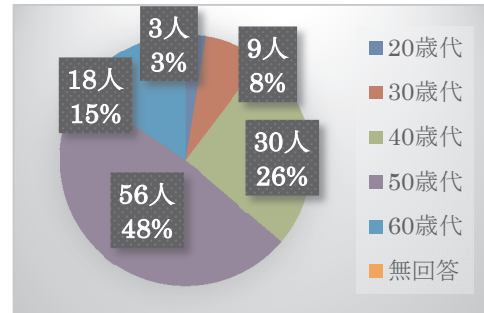
平成30年度 看護師Ⅰ・看護師Ⅱ職能合同集会アンケート結果

参加：181名 アンケート回収率：64%

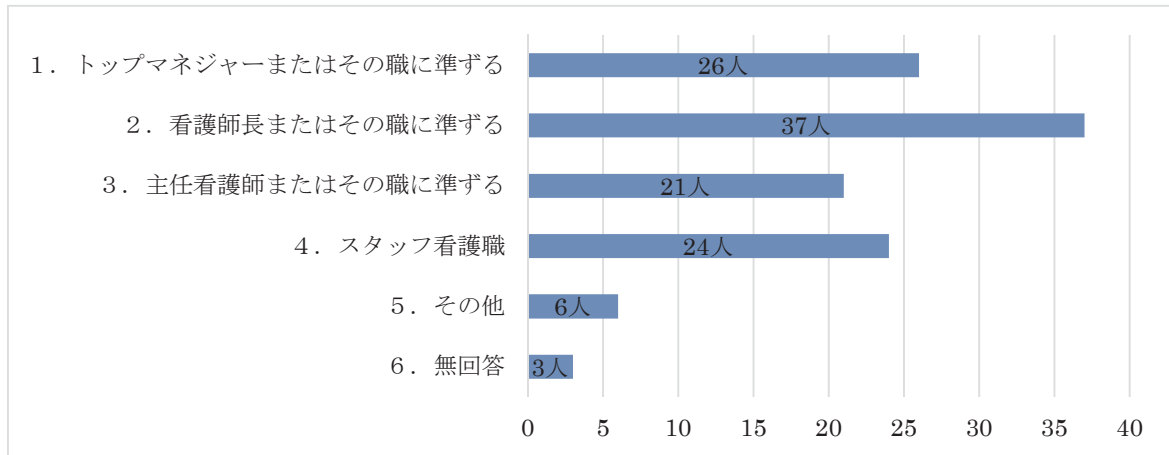
I あなたの属する職能をおしえてください。



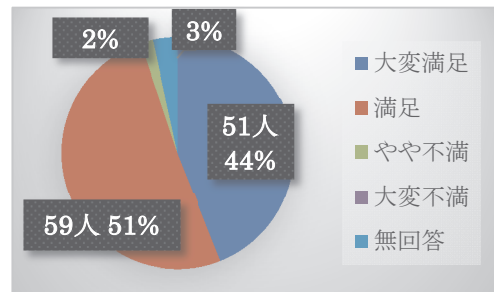
II あなたの年代をおしえてください。



III あなたの役職をおしえてください。



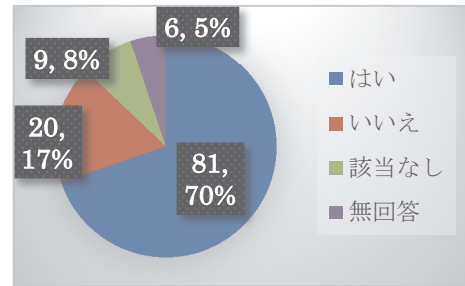
IV. 内容はあなたの期待に沿っていましたか？



やや不満・大変不満の方はその理由をお願いします。

- 事例に対して具体的な解決法や対策を聞きたかった。
- 身体拘束をしない看護の具体的な戦略について聞きたかった。

V 貴施設・部署では身体拘束をしない看護に取り組んでいますか。



VI Vの質問ではいと答えた方にお聞きします。

- 貴施設・部署では身体拘束をしないためにどのような取り組み・工夫をしていますか。
 - ◇ 職員が身体拘束に頼らない気持ちを持ち、声を掛け合いながら取り組む。
 - ◇ 身体拘束ゼロを継続していきたい。
 - ◇ 身体拘束をしないとして「身体拘束廃止宣言」を掲げ、ケアをおこなっている
ので、職員はその意識を持っている。
 - ◇ 見守りの強化と安全面への配慮
 - ◇ 研修会の開催
 - ◇ カンファレンス
 - ◇ 中身のある検討会
 - ◇ 今年度は、看護部目標に「抑制しない看護」という言葉がはいった。
 - ◇ 努力はしているが成果が見えない。インシデントレポートにつながっている。
それでも拘束を中止することを選択する組織でありたい。
 - ◇ 数分でも拘束を外し、自由にできる時間をつくるように対象を決めて、試験的
に取り組み始めた。成功体験を経験し、考える時間をつくっていこうと考えて
いる。

VII 今回の講演を聞いて、今後、貴施設または部署では、身体拘束をしないためにどのよう
な取り組みや工夫ができると思いますか。

【カンファレンス・事例検討】

- ◇ 看護と介護の間で倫理観を共有する
- ◇ 職員が話し合う機会を設ける
- ◇ 研修会開催
- ◇ カンファレンスを実施
 - どうしたら拘束を外す時間を作れるか検討している。
 - 看護計画で立案している。
 - 抑制が本当に必要か、抑制している人には、解除時間を作っている。
 - 理学療法士とセンサーマット、体幹抑制を外す時期を考えている。
 - 身体拘束をやむを得ず実施した場合、必要性や他の方法など検討する。

- 拘束時間を短くする方法を考える
- 見守りを多くしている。全スタッフが情報共有の強化をしている。
- 認知症ケアの看護計画立案、ラウンドを行う。
- 転倒転落アセスメントシートの活用、カンファレンスで共有、皆で考える。

【倫理】

◇ 倫理事例検討会

【実践】

- ◇ 必要な患者からは同意をとるようにしている。
- ◇ 拘束の前にできるケアを考える。
- ◇ 必要最低限の拘束を考える。
 - 食事や清潔ケアの時間以外に必ず身体拘束をしない時間を1時間以上設ける。
 - 拘束を外す時間を少しでも設ける。
 - ラウンド時、少しでも抑制を解除している。
 - 時間を決めての拘束の解除・身体状態が落ち着いている人への解除
 - 24時間拘束でなく、外す時間を作る。
 - できるだけ日中はミトンを外す。車いすに乗せている。
 - 抑制ミトンをしている方に、手作り手袋など代用し抑制解除した。
- ◇ 離床への援助・退院へ向けての取り組みにつなげる。
- ◇ PEG チューブの自己抜去予防に腹帯を使用し、ミトンや拘束をしない。
- ◇ 離床センサーの使用、部屋割りの工夫
- ◇ 治療による拘束が長期化しないようにアセスメントし、医師へ提案する（酸素療法、点滴、経鼻チューブ、ドレーンなど）
- ◇ ベッドサイドで患者さんの見守りを行っている。

【管理の側面】

- ◇ 看護部目標に掲げて各部署で取り組んでいる。
- ◇ 看護師長会での目標管理でディスカッション
- ◇ 組織全体で重点取り組み事項にあげて、本当に必要な拘束だったのか振り返りを行っている。
- ◇ 委員会の設置
 - 患者の評価を日々行いながら、事例検討を行っている。
 - 身体拘束ゼロに向けて、拘束が必要な状態なのか？一時的なのか、継続的に行わなければならないのかを評価し実施している。
 - 研修、アンケートを実施し現場で日々のケアを工夫している。
 - プロジェクトチームを立ち上げて拘束0に向けて取り組んでいる。
- ◇ 集計をし、数が減るよう報告している。
- ◇ インシデント事例検討会

- ◇ マニュアルの整備
- ◇ 病棟で研究発表し、スタッフの拘束に対する意識づけをした。

【職場風土】

- ◇ 職場環境と業務改善に取り組み、心に余裕を持ちながら傾聴する。

VIII. 本日の職能集会の内容、運営に関することなどについて、ご意見をお聞かせください

【内容について】

- ◇ 身体拘束を「なぜするのか」「してはいけないのか」「しなければならないのか」といったことを改めて考えることの必要性を感じた。
- ◇ 患者の話を聞くために、どのように時間を作るか、スタッフに考える習慣をつけるための取り組みをどうするかについて考えていく。
- ◇ とても興味深く聞くことができた。
- ◇ 看護のあり方、今後について組織ではどのような考えが必要なのかまで考える講演であり学びが多いものだった。
- ◇ 身体拘束に取り組んでいる。考えるプロセスを教えて頂いた。
- ◇ 拘束「0」ではなく、カンファレンスの重要性が分かった。
- ◇ 人を思いやる気持ちの重要性、自分がされて嫌なことはやらないことが基本だと考える。
- ◇ 臨床事例を踏まえた講演で分かりやすかった。
- ◇ 大変良い講演でした。もう少し聞きたかった。
- ◇ とても楽しく勉強になった。
- ◇ とても感心がある内容でタイムリーであった。

【運営について】

- ◇ 職能を超えて聴きたい。
- ◇ 総会終了後、職能集会開始まで30分以上の待ち時間は長かった。無駄だと感じる時間を少なくしてもらいたい。
- ◇ 会場が寒かった。

会場の温度調節など行き届かない点があり、申し訳ありませんでした。

職能合同集会の開始時刻については、諸事情のことを考慮し、時間の変更が難しいことをご了承ください。ご意見は今後の検討事項とさせていただきます。

Ⅷ 今後、職能集会で取り上げて欲しいテーマや取組みについてお聞かせください。

- ◇ アドバンスケアプランニングについて
- ◇ こころに寄り添うことを考える
- ◇ 介護領域での医療安全
- ◇ 災害対策看護
- ◇ ハラスメント対応
- ◇ 身体拘束
- ◇ 医療連携・在宅・地域との連携
- ◇ 元気になれるテーマ
- ◇ 身近なテーマの成功例の話
- ◇ 人材育成
- ◇ 心身障害の理解と対応など
- ◇ 看護教育（基礎教育）に臨床側から求められること
- ◇ 看護教育の4年制化の課題など

Ⅸ その他、ご自由にお書きください。

- ◇ 「話し合える職場風土」に取りくもう、意識していこうと思える機会となった。
- ◇ 明日からの元気もいただきました。
- ◇ とても分かりやすく、参考になる講演だった。
- ◇ 普段業務でジレンマに感じていることはある。解決はできていないけど、話を聞けて少しスッキリした。
- ◇ 堅苦しい話でなかったので、手ごたえがありました。
- ◇ 熊谷先生のお話をまた聞きたい。
- ◇ 人の上に立つ人は、立つ前の気持ちを出世と共に忘れる人が多く、出世のために悪しきことも見ないふりをする。講師の先生のように環境を整えてくれる上司や職場に出会いたいです。医療の現場はブラックすぎます。

**アンケートへのご協力ありがとうございました。
ご意見は、今後の職能委員会活動に反映させて参ります。**

